

しずおか福祉

〒425-8611 静岡県焼津市本中根549番1 TEL.054-623-7000 FAX.054-623-7453 <http://www.suw.ac.jp>

本学のユニバーサルな教育環境

障害学生の大学への進学

現在、障害のある学生が在籍する高等教育機関は五九二校、学生数は六〇〇〇人弱といわれます。また毎年、五〇〇人が入学を果たしていますが、その中には自らの障害「筋ジストロフィー」の遺伝子治療について研究したいと意欲を燃やす学生もいますし、視覚に障害がありながら医師の国家試験に合格した学生もいました。

その背景として、まず「欠格条項」(障害を理由として免許を与えない条文)の多くが廃止され、障害のある若者の職業上の選択肢が法的にも広がったこと。福祉の町づくりに見られるように障害者のアクセシビリティに配慮した環境が整いつつあること。そして誰もが学習可能な環境を保障する大切さを高等教育機関の側が意識しはじめたことなどをあげることができます。

見方を変えれば、「完全参加と平等」というスローガンで知られる国際障害者年をきっかけとする我が国の障害者運動の大きなうねりと、それに応える形で障害者施策を推進した行政側の努力が就学の分野で実を結びつつあるともいえます。その意味で障害学生数は、ノーマライゼーションのパロメーターの一つといってもよいでしょう。

本学の受け入れ体制

本学は開学と同時に、障害学生支援

委員会を立ち上げました。これは本学の福祉理念——「障害があるなしにかかわらず、ともに社会参加できる」ユニバーサルな環境を実現する活動の一端であり、教育理念として掲げる「個別に定める教育体制」を具現化する仕組みとして位置づけられます。最初の入学式において手話通訳、パソコン要約筆記を導入しましたが、こうした情報環境の整備は一人の情報弱者も生まないという決意の現れでもあるのです。



そこにあるのは、障害のある学生を特別視し、助けるという発想ではなく、学びたいという本人の要望に基づいて環境を改善する、つまりは障害を不幸ととらえるのではなく、それがもたらす不便さの解消をはかるといふ発想です。そうしたなかで、実際に実施している支援活動にノ

トメイクがあります。これは手書き、あるいはパソコンを活用し(写真)、教

員の話をも素早く的確に要約し、障害のある学生に伝える方法です。現在、週二〇コマ程度の授業で、学生あるいは地域の皆さんによる支援活動がおこなわれています。また、パソコンノートメイクで使用するソフトは本学福祉情報学科の教員が設計し、県下のソフト会社が開発を担いました。

ともすると、わたしたちは障害があるのだから人一倍がんばらねばならないといった、一人のがんばりに期待しがちです。しかし、障害学生支援とは、支援の仕組みを整えることによって、平等な学習環境を実現する工夫と配慮にほかなりません。一人ががんばる障害観ではなく、みんなでがんばる障害観への発想の転換です。考えてみれば、メガネがなかった時代、今よりも多くの人が障害者だったはずで、ところが今では、ホーキング博士のように電動車いすと音声合成装置によって世界中を飛び回る科学者もいるのです。

夢の実現のお手伝い役

さて、障害とはそれがあろうというだけで、人としての尊厳と自由が容易におかされやすい状態といえます。それだけに、多くの若者が障害ゆえにがまんを強いられることなく、そのもてる能力を発揮するために、そして能力にふさわしい職業に就くことができる社会を実現するために、高等教育機関の果たす役割が大変重要となります。障害学生支援委員会は、彼らの潜在能力を伸ばし、夢の実現に向かって大きな一歩を踏み出すお手伝い役ともいえるでしょう。

(障害学生支援委員会委員長・太田晴康)

活躍する学生図書館委員会



〔学生図書館委員〕…

齋藤陽子、中津川千夏、村松恵美子、杉山綾野（福祉心理学科3年生）
竹下よしの、村松裕美子（福祉情報学科3年生） 伊藤 香（介護福祉学科2年生）
望月清加（福祉心理学科2年生） 石井佳純（福祉情報学科2年生）

〔本学図書館司書（担当係長）〕…進藤令子
〔本学図書館長〕…小田部雄次

皆さんは、本学に学生図書館委員会があるのをご存知ですか？ 学生図書館委員は、図書館を日々愛用する学生の中から、図書館司書の推薦を受け、館長によって任命された学生によって構成されます。今回は、こうした本学図書館の運営を支える学生図書館委員会についてご紹介いたします。皆さんの図書館に対するイメージや、利用の仕方が変わるかもしれません。

I 学生図書館委員会の活動について

進藤：最初に、学生図書館委員の活動についてどなたか紹介してください。



村松（裕）
現在、9名で活動しています。別すると、図書紹介ホームページ、企画展示の三部門です。

それらはローテーションを組んで、交代で担当しています。さらに、館長や事務部長、図書館司書の出席のもと、図書館のよりよい活用のための会議を定期的に開催しています。この会議では、各グループの進行具合を確認し、疑問点や意見を出して話し合います。また、企画展や図書館全てに関わる取り決めなどの大きな仕事の時には、委員全員で協力し合っています。私たち委員は、学生を代表して、意見や要望を図書館運営に反映させることを目的として、多くの人が利用しやすい図書館づくりを目指しています。

村松（恵）：次に、三部門の仕事内容について説明します。まず図書紹介の担当者、学生用購入図書の推薦や選定と入口にある図書紹介コーナーの企画運営などを行います。二番目のホームページ担

II 学生図書館委員になって

ナーの設置などでしょうか。



中津川
移動、館内におけるノートPC使用のための電源と無線LANの設置、あとプリンターとスキャ



村松（恵）
当者は図書館ホームページへ感想文などの参加をしたり、企画展のPRを行ったりします。企画

の担当者は、企画展示コーナーの内容の検討、展示物の作成その他、利用促進につながる事項について活動します。

進藤：皆さんの今までの活動について、何か具体的にあげてもらえますか？

中津川：最も目に見えるものは、個人学習用機の設置、DVD視聴コーナーの移動、館内におけるノートPC使用のための電源と無線LANの設置、あとプリンターとスキャ

れている学生を見ると嬉しいですね。
村松(恵)：人のお役に立てるのが嬉しいし、その為に努力していきたいです。
望月：その他に、私は委員の皆さんとのつながりができたことも嬉しいです。



石井：あと、意見を反映させていろいろと変えていく場というのには、今までにない体験だけに、それも嬉しいですね。
伊藤：私も、自分たちが話し合ったことが動いていくことは嬉しい。無論、いつも私たちの意見が通るわけではありません。でもそうならなくても、学生が中心になっていくのはいいですね。



村松(裕)：学生主体の図書館になって、実際に、他の学生から「使いやすい」などの声を聞くと嬉しいですね。
杉山：皆さんが利用しやすい図書館になるように、これから私もやっていきたいと思っています。

Ⅲ 最新の企画展示

進藤：次に、最新の企画展示について、どなたか紹介してください。



望月：はい。今回は、私たち図書館委員が初めて企画したものです。主な担当は伊藤さんと私で、先輩方などの委員の協力を得ながら準備してきました。私は主に現在の小学校の道徳教科書の分析を担当しました。特に委員全員による教科書三〇冊の分析作業

は大変でしたが、良い勉強になりました。ぜひ多くの方に見ていただきたいです。



伊藤：私は、今回展示した復刻版教科書を読んでいた昔の子どもたちが過ごした戦前・戦中・終戦直後の世相の紹介と子どもに関する話題を調べました。調べてみると、戦争を

さんで、内容が大きく変わっていると思われるものもあるし、逆に変わっていない内容もあり、興味深く感じました。
進藤：今回のテーマを決めた理由は？
伊藤：授業や実習を通して復刻版の教科書を見る機会があり、個人的には興味がありました。それで、他の多くの学生も興味を持つのではないかと思ったり、ぜひ知ってもらいたいと思ったり。

望月：また、今の子どもがどんな教育を受けているのかについて調べたいという話も出ましたので、本学は福祉大学でもあるし、主に福祉の視点から道徳の教科書を読んでみようということになった訳です。
進藤：展示直前の今の心境としては？
杉山：まず、企画準備の大変さが分かりました。そして昔のことを調べていくうちに「こういうことがあったんだな」ということをいろいろ知りまして、そういった事は、福祉の仕事につく上で、知っておくといいなと思いました。

中津川：昔、自分が道徳の教科書を使っていたときは、自分の中に福祉という視点はなかったけど、今回、改めて福祉についていろいろな内容が載っていることに気づき、びっくりしました。
石井：自分が使っていた教科書とは違う内容の教科書があったりしたことが、面白かったです。皆さんも面白く見ていただけるのではないかと思います。
村松(裕)：歴史をまとめましたが、他

の学生の興味のあるものや福祉に関わる事項を選ぶのが大変でした。作成した揭示物を参考に展示を見ていただきたいです。
竹下：準備はなかなか大変でしたが、仕上がっていったものを見ると、「やったな」という感じです。戦争前後の歴史を調べて、勉強になりました。他の学生にも私たちの調べたことをぜひ見ていただきたいです。
伊藤：委員の皆さんと何かと時間をやりくりして、少しずつ形にしていけることができ良かったです。
望月：福祉というキーワードでまとめるのが大変でした。でも皆で一つのものを作り協力して作れたのが良かったです。
村松(恵)：時間がなくて、ひたひたでくれる仲間がいたのは有難かったです。
斎藤：大変でしたが、普段交流を持っていない他学科、他の学年の人たちと協力しあって一つのことをやれたのは良かったです。今回の企画を通して、学生主体を実感できました。また次につなげてゆきたいです。

Ⅳ これからに向けて

進藤：最後に、今後の活動予定や抱負などを聞かせてください。
杉山：図書館のより良い利用のために、アンケートを取ってみたいです。
竹下：これからもっと学生の声を取り入れていきたいと思っています。
村松(裕)：具体的には人気の図書や資格関連の図書、DVDなどをそろえていきたいです。また、図書館だよりを作って新着図書のお知らせや人気図書ランキングを載せたり、感想文の募集、購入希望図書の受付を行ったりして、親しみある図書館にしていきたいです。

中津川：あと、ホームページの充実もはかっています。
望月：もっと、多くの学生にとって楽しく役立つ図書館にしていきたいです。
斎藤：私自身、図書館が好きなので、これからも利用してもらえたらいいなと思っています。あと図書館委員がどんな活動をしているかについても他の学生に知っていただきたいです。
石井：また、図書館委員同士でもまとまることができた感じがします。今後もそれぞれの担当を作って、それをしっかりやっていきたい。
伊藤：企画展示についても、興味あるテーマがあるので、また皆で話し合っ



第5回図書館企画展の様子です

有して取り組んでいきたいです。
村松(恵)：後に続く後輩のために、自分は何ができるのかを考えながらやっていきたいです。そして、次につないでいく後輩を育てていきたいです。
進藤：皆さん、ありがとうございました。今後は地域への開放など、これからの図書館の役割についても検討していきたいですね。

第二回 静岡福祉大学球技大会 大成功！

去る4月28日、第一回静岡福祉大学球技大会が開催されました。当日は快晴の中、ドッジボール、フットサル、餅つきが行われました。球技大会開催に当たって、急遽結成された球技大会実行委員会としては、初めての試みということで、成功するのか一抹の不安を感じつつの開催となりましたが、静岡生の熱気にそんな心配は一気に吹き飛びました。

大会は、球技では三〇チームが参加し、熱戦が繰り広げられたとともに、餅つきでは、学生自らが餅つきに参加するなどして、参加した二五〇名を超える学生みんなで大いに盛り上がりました。



盛り上がる静岡生

当日は昨日までの雨がうそのようになり、さわやかな春空の下、朝から大勢の教職員や学生が開会式の会場となったグラウンドに集合しました。

普段見慣れた大学キャンパスも、一様にジャージ姿の教職員、学生が入り混じる中、開放感とこれから始まる球技への期待感からか、朝からある種の熱を帯びていました。

開会式では、若干の緊張と不安を感じながら、本大会実行委員長である山本怜奈さんから開会の言葉が放たれ、ついに球技大会が開始されました。



期待感に胸ふくらます静岡生

球技は、女子参加が中心となったドッジボール、男子参加が中心となったフットサル二種目が行なわれました。

これらの球技には学生の参加だけでなく、教職員の参加もあり、あまり運動されていない方々も参加することから若干不安の声もありましたが、そんなことは

全くの杞憂に終わりました。普段の業務や授業からは伺い知ることのできない、教職員の勇姿(?)に歓声が沸き起こりました。

特にドッジボールでは、教職員チームは、足がもつれて転んでも立ち上がり、ぶつけられてもぶつけ返し、不屈の精神力で、年齢差を跳ね返してついには準決勝まで進出しました。

しかし、快進撃もここまで。最後の試合は善戦むなしく、世代交代の波に飲まれてしまいました。



年齢差を跳ね返す教職員チーム

また、フットサルにおいても、公式なフットサルコートよりも狭い体育館内に設けられたコートで、選手と選手、観客と観客、そして選手と観客いずれも、お互いの距離を近くに感じながら、熱気ムンムンの中、熱い試合が繰り広げられました。

フットサルのチームは、全十八チーム中十六チームは男子のみのチーム編成の中、女子だけで結成された、凸凹の活躍が光りました。



選手、観客ともに盛り上がる静岡生

一方で、厚生・講義棟で行なわれた餅つきは、また球技とは違った盛り上がり方をしていました。

この日準備されたのは、杵と臼2セットにもち米50kg、動員された学生一〇人以上と実行委員会も餅つきには相当に気合が入っていました。みな、意外に重い杵にびっくりしたり、中には、臼に思い切り杵を打ち付けてしまったっていました。

餅つき最大の楽しみは、やはりつきたての餅を思い思いの味付けで食べることではないでしょうか。

今回の餅つきでは、お汁粉はもちろん、きな粉、納豆、大根おろし、苺を餅で包んだ「苺餅」まであり、バラエティに富んだもので、大好評でした。

不思議なのは、餅つきイベント後のみ
んなの一体感と充足感です。
重い杵をもち、臼という的に向かって
力強く打ち付けるその行為または、その



初めての餅つき体験



力強い杵さばきの加藤一夫学長

閉会式は、決して段取りが良いもので
はなく、ただたどしさが目立ちました。が、
この閉会式自体、学生自身の手によって
執り行われた今回の球技大会を象徴して
いるように思いました。実行委員会のメ



うれしい、うれしい表彰です

行為をみるということにその効果がある
のか、はたまたできたての餅を食べると
いうことにその効果があるのかは定かだ
はありませんが、餅つきをした後はみん
な笑顔になって、楽しい雰囲気共有す
ることができました。
このような熱気の中、あつという間に
午後になり、そして閉会式の時間となっ
ていました。皆心地よい疲労感の中、再
びグラウンドに集合し、表彰式が行なわ
れました。
閉会式に参加した人たちの顔は、今日
一日を目いっぱい楽しんで充実感で輝い
ていました。

今年度の新しい学友会メンバーが決定
いたしました。新1年、新2年のフレッ
シユな力で、静岡福祉大学を盛り上げて
くれそうです。

新学友会メンバー決定



お疲れ様でした！

ンバーは、不慣れな大会運営の中、苦い
思いをしながらも、今回の大会をやり遂
げました。
また、今回の大会を通じて感じたのは、
静福生たちは、自分たちでも気がついて
いない、若く、情熱的なエネルギーを持
っているということです。そして、その
エネルギーの発散の場所を探している、
そんな気がしました。
今回の大会は単発で終わってはどの意
味もありません。来年、再来年とパージ
ョンアップし、是非、静岡福祉大学の一
大イベントになることを心から願います。
最後に、今球技大会の関係者および協
力してくれた皆さま、参加した静福生の
皆さん、本当にお疲れ様でした。

以下に学友会代議員メンバーの名前を
載せます。



新学友会メンバーです

議長	長澤佐季子(福祉心理学科2年)
副議長	森川あすか(介護福祉学科2年)
書記	増田大樹(福祉情報学科2年)
会計	牛山智哉(介護福祉学科2年)
代議員	山本昌路(福祉心理学科1年)
	唐木崇利(福祉情報学科1年)
	岡部愛(福祉心理学科1年)
	山田里紗(福祉情報学科1年)
	土屋直仁(福祉心理学科3年)
	中津川千夏(福祉心理学科3年)
	山本怜奈(福祉情報学科3年)
	吉田圭(福祉情報学科3年)
	渡邊健太(福祉心理学科2年)
	増田美乃里(福祉情報学科2年)
	草野彩(福祉心理学科1年)
	西川泰平(福祉心理学科1年)
	小柳正友(福祉情報学科1年)
	渡邊千尋(福祉情報学科1年)
	青島和孝(介護福祉学科1年)
	權守健悟(介護福祉学科1年)
	竹内利奈(介護福祉学科1年)
	中村有希(介護福祉学科1年)

「シニア市民大学」自己発見コースと編入生の抱負

本年度より子育てや仕事から自由になったシニア市民を対象とした「シニア市民大学」自己発見コースが開設され、現在6名の方が本学で学んでいます。また、福祉心理学科に6名、福祉情報学科に3名の編入生が入学されました。

そこで、皆さんに本学で学ぶにあたっての抱負を伺いました。

「シニア市民大学」自己発見コース

島田 健作さん



私は、自治会役員を四年間やっており、昨年から「地域福祉推進委員会」の会長になり、月一回のミニデイサービスなどを実施しています。その中で、福祉について学問的にもっと深く勉強したいと思うようになり、本学の「シニアコース」に入学しました。それからわずか数ヶ月、今は驚きでいっぱいの日を送っています。「精神保健福祉士」という国家資格があることを知り、ぜひ取得に向けてチャレンジしたいと思っています。

学生生活ではボランティアサークル「どろ」へ入りました。又、私は現在、踊りを習っており、「焼津みなと群舞」、「マツケンサンバ」などをお祭りやデイサービスで仲間と一緒に披露しています。当大学の「ダンスサークル」でも一緒に練

編入生

田中美希さん

(福祉情報学科3年生)



私は耳が聞こえません。今年の3月まで、茨城県つくば市にある、聴覚・視覚障害の学生だけが集まる筑波技術短期大学(現 筑波技術大学)で、情報工学を専攻していました。そこでは耳の聞こえない教員が少なく、学生の苦しみを理解し、共有できる教員がいれば大きい励みになるのにと強く思っていました。

聞こえない学生が、障害により生じる困難を感じなくさせるためには、模範となる耳の聞こえない教員が必要です。そこで、私は自分の障害を活かした仕事に就こうと思い、多くの先輩や友人がシステムエンジニアとして企業に就職するなか、教員を目指すことに決めました。

この大学では教職の勉強をしながら、障害者の情報保障についても勉強したいです。いつか教員になったとき、耳の聞こえない学生たちに障害を持っていることで諦めるしかなかった夢や道が、情報保障の支援の普及によって開けてくるこ

とを教えたいからです。だから、私はいつまでも受け身でいるのではなく積極的に受ける立場として意見を出し、支援してくれる方々と一緒に、静岡福祉大学を今よりもっと障害学生と一緒に学びやすい環境に変えていきたいと思っています。

土橋美緒さん

(福祉心理学科3年生)



本学短大介護福祉学科を卒業し、自分の興味のある分野を学びながら社会福祉士という将来の夢に向かって前進したいと思い、福祉心理学科に編入しました。

短大で初めて福祉を専門的に学び、福祉とは「すべての人々がそれぞれよりよい人生を送る」ことを意味するのだと知り、私たちは生きていく中で、「人とはどういう存在であるか」そして、「人間関係はどのように築けばよいのか」ということを考えていく必要があるのだと思いました。

短大時の介護実習で、施設のスタッフの皆さんが限られた時間の中でテキパキと仕事をこなしている姿を拝見いたしました。短大の学生としての知識と経験だけの未熟な私ですが、もっと幅広い知識と経験の必要性を感じました。

私は人間そのものと向き合える社会福祉士はとても魅力的な仕事だと思います。施設の中だけでなく、子供から大人、高齢者まで幅広い年代の多くの人たちに今、人間関係を円滑に結ぶコミュニケーション力が欠けていると感じています。福

祉を学ぶ私たちはどのような問題意識を持ち、何を見つめて考え、推し量り進めていくべきなのか。この大学生活で出会う様々な人たちとのふれあいを大切にし、その交流の中で深く追求していきたいと思っています。

稲垣奈緒さん

(福祉心理学科3年生)



今年の3月まで保健師として、赤ちゃんの健診や訪問、成人・高齢者の健康相談や健康教育、障害者の方への支援等、地域全体に対する保健活動をしてきました。沢山の方

と接するなかで多くのことを学び、多くのことについて悩み、中でも精神障害者の方と接するときは、保健師として自分に何ができるのか?というのを常に考えていました。障害者の方に対して『予防』という視点が持ちにくかったこともあり、障害者の方への理解をもっと深めたいと考えました。

この大学では精神保健福祉に関する勉強だけでなく、人に接する上での相談援助技術を深めていくためにも、そして、自分のためにも、心理学を学びたいと思っています。実際一ヶ月過ごしてみても毎日の講義からだけでなく、学校生活そのものから得るものが多く、とても充実しています。今までの経験を活かしつつ、大学でさらに自分をステップアップさせ、また地域支援活動に生かしていければ嬉しいと思います。

新任教職員紹介

教 員

鍛冶屋浩一（福祉情報学科教授）

九州人です。長い間、九州内で働き、岐阜県にある東海女子大学を経て、今年度から静岡福祉大に勤務することになりました。専門は、老人福祉、援助技術演習、公的扶助論です。その他、韓国語も話します。九州人のせいか、焼酎の飲み方には少しうるさいです。

吉永洋子（福祉心理学科助手）

福祉・実習指導センターにおいて、福祉関係の現場実習を担当しています。3月まで病院に勤務していました。病院・施設などの現場での実習では、直に福祉の対象者と触れあい、社会福祉実践を目の当たりにすることができま。その経験が、その後の人生設計にも大きな影響を与えることがあります。皆さんにとり現場実習が、社会福祉活動の大きなステップになるように、一緒に頑張っていきたいと思っています。

杉田與志子（介護福祉学科講師）

介護実習等を担当しています。前の職場は北関東にあり、通勤電車の車窓から富士山を見るのが楽しみでした。それが、こんなに近くに富士山を見ながら暮らせるなんて思ってもみなかったことでした。人との縁は人生にとって、とても大きな意味を持つことを今、身をもって感じています。大学生活は、その意味でもとても

も意義あるものと思います。皆様とのご縁を大切にしていこうと思っています。

仲本美央（介護福祉学科講師）

平成16年度より非常勤講師としてお世話になり、現在在学中の学生の皆さんとも深く交流をさせていただきました。温かみ素直な心を持つ皆さんの姿は、福祉の専門職を目指すこの大学全体の豊かな特性であると感じています。私自身、そのような皆さんの良き後ろ盾となれるよう仕事に取り組みしていきたいと思っています。

職 員

青島 弘

（総務担当課長）

前職での経験と知識を生かし、本学の運営の一部を担う事務部門での仕事を頑張っていると思いますので宜しくお願いします。学生の皆様には、本学の理念を理解し、学生生活を楽しみ、勉学に励んで下さい。

山下幹子（総務担当）

最近皆さんはお腹がよじれてしまう位笑った事はありますか？笑う門には福来たる。私がモットーとして掲げている名言です。辛い時や落ち込んだ時も笑顔を

心がければ気分が晴れることもありますよ。私は笑いのツボが浅く、絶えず笑って毎日を過ごしています。笑いは伝染しますから、少しでも多くの方と笑い合えるよう頑張ります。私を見かけましたら、どうぞ一緒に笑いましょ。お仕事ではまだまだ未熟者ですが、精一杯頑張りますので、宜しくお願い致します。



写真前列左より、仲本、杉田、2列目左より、鍛冶屋、青島、藪崎
3列目左より、吉永、山下

藪崎朝子

（地域交流センター
1担当）

3月

では、地域で家庭相談員として子どもに

関する相談の仕事をしていました。私自身、大学で福祉を学び、教室で学んだことが実際の現場で初め

て分かりました。違った角度から勉強することによって、知識は深まっていきま。大学生活のなかで色々な体験や色々な人と触れ合うことで視野を広げて下さい。そのお手伝いができるよう頑張ります。気軽にセンターに立ち寄ってください。お待ちしております。

キャリア支援室より

4月から新たに「キャリア支援」の講義が始まりました。就職活動だけではなく社会人としての心構えなどを含めた、総合的なキャリアアップを目指す内容となっております。

1、2年生対象のキャリア支援Ⅰ・Ⅱは、元ジャーナリストの高橋絃教授と河合修身講師が「文章表現」を中心に少数で丁寧な指導をしています。

3年生対象のキャリア支援Ⅲでは、主に外部の著名人が数回の講義を担当し、多面的な問題関心と知識の養成をめざしています。

本年度は、キャリアカウンセラーの工藤佐紀子氏による「自分探し」の講義に始まり、戸本隆雄焼津市長、静岡経済研究所高橋節郎氏、島田福祉の杜理事長レシャードカレット氏、静岡朝日テレビ大長克哉氏、静岡新聞社論説委員山本哲夫氏と、著名人の講師が続きます。

キャリア支援室では通常講義以外にも様々なキャリアアップ講座を開催しており、去る5月24日（水）には、聖隷福祉事業団の山本敏博理事長による「全学キャリアセミナー」が開催され、「福祉を学ぶ学生のみならず」の演題を三五〇名の学生が熱心に聴講しました。

来年度は4年生対象のキャリア支援Ⅳを実施する予定です。全学年を対象にキャリア支援講義を実施している大学は全国的にも少なく、本学の教育の大きな特色です。

本学の体験入学の紹介

静岡福祉大ここにある

静岡福祉大学は開学して、3年が経ちました。キャンパスも活気にあふれ、いよいよ来年は社会福祉学部、1〜4年生、そして短期大学の1〜2年生が在籍する約千人の所帯になります。それに伴って現在、6階建ての教室棟の増築工事も着々と進められています。

一方、こうしたハード面の充実もさることながら、新設大学にとって最も大切なことは、多くの学生が、福祉心理、福祉情報という専門知識を学び、この分野における専門家を目指し、意欲的に学ぶことにあります。

それだけに体験入学は県内はもちろん全国に向かって「静岡福祉大学ここにある」と発信する大切な場として位置づけられます。

■三つのステップをふまえた展開

本年度は十回の体験入学を予定していますが、すでに三回を終えました。特に本年は基本的に三つのステップを設け展開しています。

- ・ステップ1 三学科 合同企画
三学科（福祉心理・福祉情報・介護福祉）の全体像を訪れた人に伝えるプログラムで構成する。
- ・ステップ2 三学科 連携企画
当日の前半は三学科の全体像、後半は学科別にプログラム構成し、専門領域にも関心を持っていただく。
- ・ステップ3 三学科 特色企画
学科ごとに特色あるプログラムを実施し、それぞれの専門についての関心を高

めていただく。

■教員と学生による『学科説明』

三学科ともに、大学案内やホームページ等でその特色を紹介していますが、体験入学では、参加された皆さんに教員と学生自ら、本学の魅力を直接お伝えしようという趣向を凝らしています。

特に学生からのメッセージ、「この学科で学んで本当に良かった。私はこんな科目を選択した」といった生の声が好評です。ムードもなごやか、語る側も聞く側もお互いに親近感を覚える様子が伝わってきます。

また、体験授業では、福祉の理念をはじめ、福祉、心理、介護、情報等、専門分野の講義を聞くことができます。講義内容は事前にお知らせしますので、これぞというものをチョイスできます。講義形式にとどまらず、性格テストあり、盲導犬君も参加したりと、バラエティに富んだ内容となっています。

■見どころいっぱい施設見学

福祉系の大学だけに施設も他大学にはないユニークさが特徴です。介護関係の福祉製品、心理実験用の各用具や機器障害のある人を支援するIT技術、ユニバーサルデザインが生んだ商品など、ぜひ体験して下さい。プレイルームや観察室の諸機材なども注目の的です。

■好評のサークル紹介

本学はまだまだサークルが少ないだけに、少数精鋭の活動が特徴。大学祭でもサークルごとの企画が盛りだくさんです。学生のクラブ・サークル紹介も元気がいっぱい。『入学して、ぜひ私たちのクラブに！ 皆さんも新しいサークルをぜひ

作ってください」とアピールの声もオクターブ急上昇といったところ。

■学食メニューをどうぞ

本学の体験入学は昼食サービス付きです。今まで参加した皆さんの評判も「結構グー」と好評。メニューは定番のカレーとラーメン（大盛りあり）をはじめ、数種類を提供します。学食でワイワイと食事する楽しいひとときをどうぞ。（広報委員会体験広報部長・山城厚生）

★これからの体験入学予定日

- 7月9日（日）、7月23日（日）、
- 8月8日（日）、8月23日（水）、
- 9月10日（日）、10月8日（日）

地域交流センター活動報告

静福生、レクを通じて地域交流

5月28日、本学で恒例の「わんぱくあそびフェスティバル2006」がおこなわれました。



ちゃっぴーも参加した開会式

そびフェスティバル2006」がおこなわれました。午前中はあいにくの雨でしたが、昼過ぎからは見事なフェス



学生全員で来場者を見送った

ティバル日和。親子四〇名、そして子ども会関係者、協力者、学生二六六名の計七〇六名が参加し、キャンパス内はワンダールンドの一日となりました。

今回で三回目を迎えますが、今年も学生や子ども会連合会の役員の方々が八回の打ち合わせと準備を積み重ねて実現しました。会場は十二のゾーン（伝承あそび、自然体験、チャレンジランキング、手作りあそび、ニュースポーツ、ウォーク・ラリーなど）にわかれ、五〇以上の遊びのプログラムを展開。またねりんピック静岡大会のキャラクター「ちゃっぴー」も登場し、楽しそうに遊ぶ親子の笑顔が至るところで見られました。もちろん本学の学生たちにとっても、充実した一日となりました。

編集担当

本号の編集は、以下の教員が担当しました。
梶木てる子、太田晴康、岡澤裕子、小田部雄次、斎藤剛、田崎裕美、中田薫